

世の無常・平家物語

## 猛き人義経の最期

⑦

一龍斎貞花

講談師

鎌倉幕府政治のほとんど総ての分野に関与、守護地頭の設置により体制の基礎固めをした公文所別当・大江広元、幕府を支えた優秀な官僚、頼朝亡き後も北条政子は信頼して続投させた。トップが代れば首脳人事を代えることが応々にしてあるが、優秀さを見抜いて任せた政子も見事だ。

守護地頭は、諸国を管理し一番の目的は税の確立にあったのであろうし、またひとつには義経の逃亡を把握するためもあったようです。

逃げる義経は、若き日を過ごした平泉へ。藤原秀衛は喜んで迎えます。義経を擁うして攻めのぼり頼朝を倒して天下を取めん気持ちであったとも。しかしそれからわずか8か月後秀衛は伴泰衛に、「義経を粗略に

扱ってはならん」と遺言し病死。

### 猛き人義経の最期

文治5年4月30日、泰衛は軍勢をさし向け義経の館を取り囲んだ。藤原氏を屈服させ奥州を我が物にせんとする頼朝は、「<sup>かくま</sup>匿っている義経を討て、討たなければ軍勢をさし向ける」これには泰衛も父の遺言にそむかざるをえませんでした。攻めての大將は家来の長崎太郎。

「泰衛ら兄弟が将なれば<sup>いっし</sup>一矢報いるところだが、家臣が将とあつては弓を引く迄もないことよ」家来が将とあつては自ら戦うのはむなしいと考えた義経。正室八重姫が落ちゆく義経の元へかけつけ、それまで八重姫に余り愛情を感じなかったものの駆けつけてくれたことで愛情を覚え最後迄行動を共にしたのでございます。最後は本妻なんですね。

500人の敵に対し、武蔵坊弁慶以下わずか10人、弁慶大働きするといえど敵は大勢味方は次々と討ち死。最早これ迄と弁慶、<sup>やかた</sup>館の前で仁王立ち。「それ射殺せ」雨あられと降りそそぐ矢を<sup>なぎなた</sup>薙刀をもって払いのけておりましたが、四方八方から飛んでくる矢を防ぎ切れるものではありません。全身に無数の矢を受けるや、立ち往生のままカッと眼を怒らせ壮烈な最期を遂げました。

静かに法華経を読み終えた義経は、鞍馬寺の別当より贈られし愛刀三條小鍛冶を我が腹にグッと突き立てるや、八重姫

の守り役十郎兼房に「八重に止めを頼むぞ」、兼房「御免！」と刀を八重姫の乳の下へ。八重姫苦しい息の中にも「南無阿弥陀仏・・・」念仏を唱えておりましたが、その念仏の声が止むや、兼房あふれる涙ぬぐいもせず、返す刀でわずか4歳の幼い姫君にも刃を突き立てます、この時八重姫22歳。グツとこらえてこの様子を眺めておりました義経、「早く館に、火をかけよ」稀大の英雄源義経、最後の言葉でありました。

「それっ、義経の首をっ」その後義経の首は腰越において、和田義盛、梶原景時によって首実検され、首は藤沢に埋葬されたといわれ、祀られている白旗神社近くに義経首塚、首洗いの井戸が。

衣川で亡くなったのは身代わりで、松前で蝦夷の娘と結婚したとか、モンゴルへ渡りシンギス汗になったとか、英雄なればこそその伝説と申せましょう。勇猛果敢に戦い判官びいきの言葉を残した伝説の英雄、歳わずか31歳、猛き人のはかない一生でありました。

悲劇の英雄として人気は高く、頼朝をはるかに凌ぐ義経を好きな人は多い。

しかし主人はあくまでも頼朝であり、義経は臣下である。手柄を立てれば自由にふるまってよいだろうか。義経が嫌いなのではない、組織の在り方を考えて頂きたい。優勝した監督が、スカウトの提出したドラフト候補を一言で却下、合宿やキャンプの部屋割りにもタッチ。勝て

ば許されるのか。好成績をあげた部下に人事権を渡しますか。トップとして許されないでしょう。以前にも書いた通り、主人の許可なく後白河法皇から勝手に左衛門尉の位をもらい、好戦的であった義経。主人頼朝の性格を読めなかった不幸もあった。信長の性格を読んだ秀吉との違いである

### 組織とは、読み不足義経

人事組織をきちんとし、為政者として武家政治、幕府を確立した頼朝。自分の座をおびやかそうとする者にはいつの時代も非情である。清盛に殺されなかったから平家を滅ぼすことが出来た。自分の経験から恐れのある芽は早いうちに摘んだのである。左遷だけですまない生死にかかわる時代だったのです。驕れる者といわれる清盛嫌いは多い。確かに後年思いのままに振舞った行為はあった。しかし歴史好きの経営者の中に、清盛を評価する人がいる。交易による外貨獲得、国力アップを図り、紀州の水軍を味方にし戦力、護衛に。山伏から情報を得る。エネルギーである木炭の確保など優れた経営があった。マスコミ報道に躍らされたり、迷わされることしばしば。

物事には必ず裏表があり、表面だけを見るのではなく本質をつかんで頂きたい。ただし、いくら良くても世間に悪く取られる清盛の如くではマイナスです。多くの教訓がこめられている平家物語です。